

神風 01

中〇生チルドレン

成年向け





神風01 中0生チルドレン

ごあいさつ

ういーす。神風 STYLEのトリイです。
久しぶりの同人活動、
久しぶりの新刊です。
しかもエロです。
皆様のご期待に応えられると
良いのですが・・・

今回は絶チルのチルドレン本です。
なんだかんだで薫が好きです。
いちめて泣かせてやりたいです。

ではゆっくり見て行ってね！

こいつは薫です。
中〇生になったと思ったら、
急に色っぽくなりました。

普段からぎゃーぎゃー小言言って
騒々しいのですが、無理やり
一発ハメてやったら猫ニャーと
おとなしくなりました。
というかことあるごとに
セックスをせがむ様になりました。
とんだ淫乱小娘です。



さあ今日もにゃんにゃんの始まりです。
最近でっかくなつたおっぱいを
誇らしげに僕の股間に押し付けてきます。
むにとした感触が心地良いです。

「ふふふっ♪」にやりと妖しい笑みを
浮かべる薫は、まだ中〇生のくせして
発情した雌猫のようです。

チキチキチキ・・・
おっさんが読むエロ週刊誌で
覚えた知識でしようか？
口でズボンのファスナーを
器用におろします。

その際も自分の胸を
強調することを忘れません。
けしからんおっぱいです。

チキ
チキ
チキ

ぼろんっ
僕のマグナムの登場です。
小娘相手でも容赦しません。
いつだって臨戦態勢です。

ビュッ
ッ

「ん……」
愛おしそうに薫がちんちんに
キスを始めます。

んんん

処女膜を貫いてやった
ときは泣いて喚いた
くせに、
女は変わるもんです



「ん、ふう……ふう……ふう……
子猫がミルクを嘗めるように
チロチロと夢中でちんちん
嘗めています。
普段からこれくらい
従順でいてほしいもんです。
調教が必要です。」




「えい」「ひゃん！」
アナルに指を突っ込んで
やりました。
存外に可愛い声して
啼きました。
でも驚いたのか、
ちんちん握り潰されそうに
なりました。痛いです。」

お尻

「ちよちよ、ちよっとー！」
流石にいたずらが過ぎました。
薫が怒り出してしまいました。
「いや、気の強い女ほど
アナルが弱……」

ムシクシ!

「馬鹿！変態！セツクスアニマル！」
怒られました。
しょうがないので甘い言葉を囁いてやります。
二言三言でおとなしくなりました。
小娘の扱いなんてちよろいもんです。



言葉巧みに薫をベッドに寝かせます。
今度は僕が攻める番です。
これから与えられるであろう快感を
期待しているのか、触ってもないのに
早くも薫のマンコは濡れ始めました。

「変なことしちやだよ・・・？」
釘を刺されましたが、変なこと
する気は満々です。
だいたい中○生とこんなこと
する自体が、十分変なことです。

おしりを突き出させて、
お待ち兼ねのペロペロタイムです。

「綺麗だよ……」

「うん……」

さらに濡れてきました。

ドキ ドキ ドキ ドキ

ちゅ…ちゅむ、ちゅるん…
わざと音を立でで
マンコをいぢめます。

「ひゃあああ……」

嗜虐性をとどめる鳴き声です。

よだれ垂らして喜んでるようです。

だんだんこちらにも我慢できなくなってきました。

「薫…良い…?」

こちらの問いかけに、薫は黙って頷きます。


興奮と快楽で汗ばんだおしりを、くいと持ち上げます。

唾液と愛液でマンコがきらきらと妖艶に輝いています。


初めてを奪ってから、もう何回もセックスしていますが、

さすが中〇生。ぴったり閉じたマンコは可愛いです。

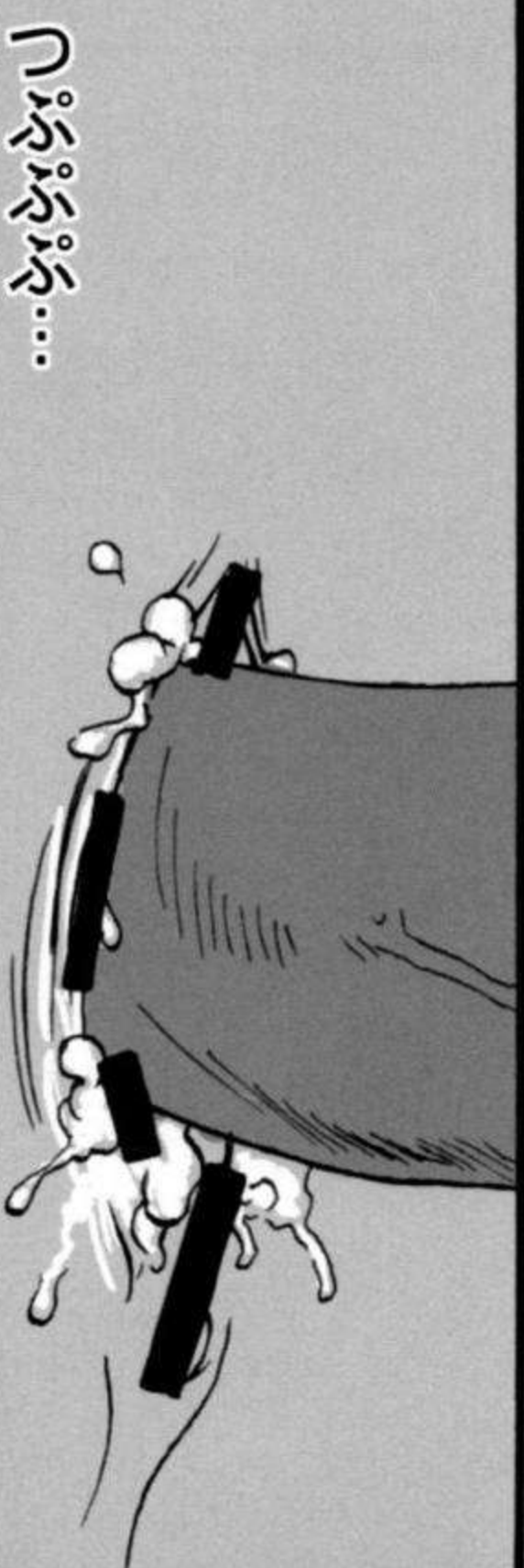




閉じた割れ目に、ちんちんの先をあてがいます。
割れ目は抵抗なく開いていきます。



「あ……」
薫が少し
体を震わせ
ました。



つぶつぶぶ……
薫にゆっくりとちんちんを
差し込んでいきます。




「やああ……」
甘い吐息を吐き出すと同時に、
薫はちんちんを全て飲み込みました。

ちよつと前まで処女だったにも
関わらず、薫の膣はすっかり
大人です。

やわらかく、そして
ぬるぬるとちんちんを
優しく包んできます。


ここまでくると、お互い獣です。
ぱちゅぱちゅと腰を
振りまわります。





ぐいつ
自分が動きやすいように、
少々乱暴に薫の腕を引っ張ります。
「あんっ」それでも感じているのか、
甘い喘ぎ声は止みません。

じゅぷ、じゅぷ
湿った音が、部屋に
響きます。
もうずっと薫の体を
貪っていたい気分です。



もうどれくらい腰を振ったか
わからなくなってきました。
そして限界がやってきました。


「やあつ、だめ、だめえ……！」
涙とよだれを垂れ流した
だらしない顔で、薫が
体を震わせ叫びます。

どく、どく、どく……!!
薫の膣に、精液を
力いっぱい注ぎます。
「やあああ……!!」
薫も精液を感じて
オルガってる
ようです。

どく、どく、どく……!!

震える薫の体を、
後ろから優しく抱えて
やります。
高い体温と汗ばんだ肌が、
心地良くなじみます……!!





「私は愛してるよ」
薫は得意げにこう返します。

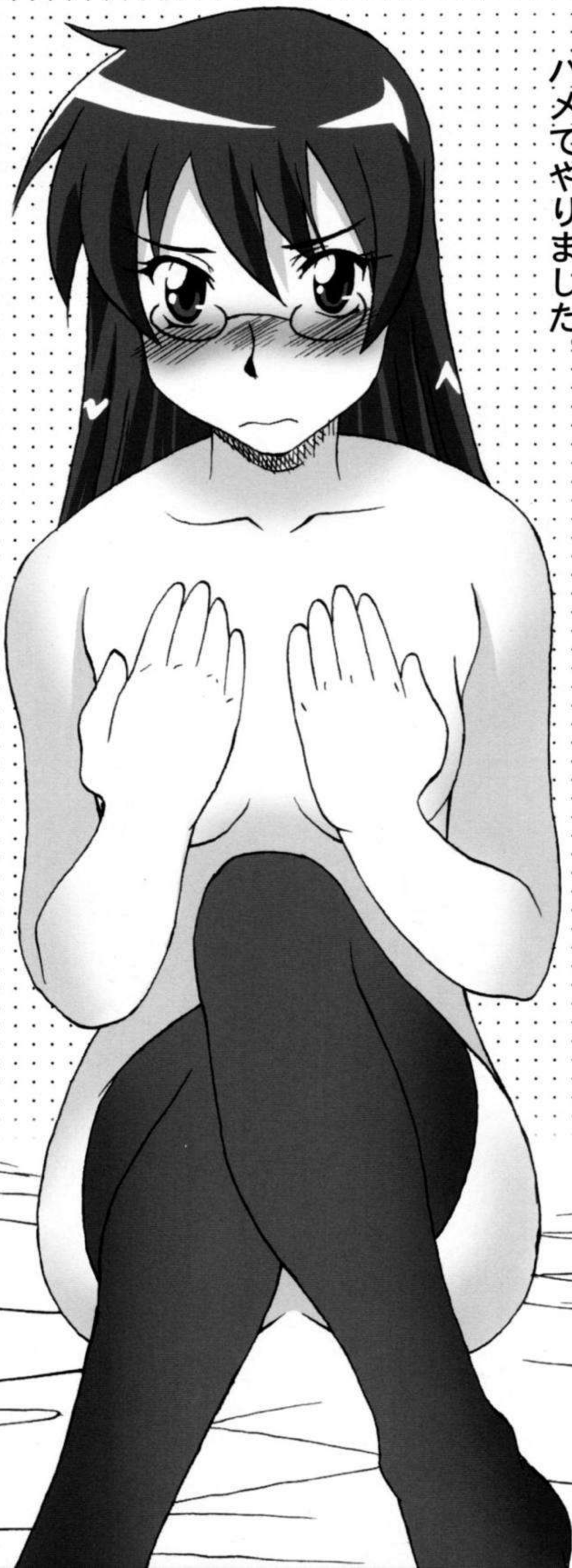
行為も終わり、
ぐったりと薫がベッドに横たわります。
どろりと精液が割れ目から垂れるのが
見えました。
「好きだよ……」
思わずそんな台詞を口走ります。



いんどめたしん女風

こいつは葵です。
ぎゃーぎゃーうるさいので、無理やり一発
ハメてやりました。

それ以来、おとなしくなったのは良いのですが、
どうも胸が小さいのを気にしているのか、
抱こうとするたびにおっぱいを隠します。
何度もセックスしてるのに、女心はわかりません。



あんまりいっつもいっつも
おっぱいを隠すので、
いい加減ムっとしてきました。



ぐいっ!
無理やり葵の腕を掴み、
おっぱいを拝んでやることに
しました。
葵の驚いた表情が、
さっ気を
掻き立てます。

ぐいっ

ぐぐぐぐ……
わざとゆっくり開いていきます。
葵も必死で抵抗しますが、
所詮女子中〇生。
力でかなうはずありません。

ぐぐぐぐ

プルプル震える小ぶりの
可愛いおっぱいとご対面です。

葵は恥ずかしいのか、
顔を真っ赤にして涙目になっ
ています。

こんな可愛いものを隠す葵に
教育してやらないといけません。
そっと唇を乳房に寄せます。

「ちゅっ☆」
乳首にキスしてやると、
ピクンと葵の体がハネました。

一度触れてしまえばコッチのもんです。



葵は
「はあああんっ」
と甘い声をあげて、
僕の頭を抱え込みます。
お返しにたっぷりと
おっぱいを吸ってやります。

満足するまで乳首を
いぢめてやった後の葵は、
まさにまな板の上の鯉です。

とろんと呆けた顔をさらして、
無抵抗に股を広げます。
とろとろに濡れた
マンコが見えます。





「じゃあいくよっ?」
「うん…」
ちんちんを葵のまんこに
そっとあてがいます。

葵の呼吸が、
期待で乱れていくのが
わかります。




ぬるぬるにとろけたマンコは
素直にチンチンを飲み込みました。
おっぱいは小さいのに、
マンコは一級品です。



ドクンッ！
ありやりや…気持ちよすぎて
出ちゃいました。
葵もビクビク体を震わせてます



夢中で腰を振ってやると、
葵もあんあん
喘ぎます。どんどん加速します。



絶頂が続いているのか、
葵はまだぴくぴくしてます。
マンコから溢れる精液が
いやらしいです。

「赤ちゃんできたら、
責任とってや…」
潤んだ瞳で葵が言います。
テレポート並みの速さで
逃げました。

こいつは紫穂です。
クソ生意気なことばっか言うので
おしおきで一発ハメてやったら
おとなしくなりました。

というかセックスの味を
覚えてしまったて大変です。
中○生らしからぬナイスボディを
ぶるんぶるん揺らして、毎日
抱かれにやってきました。





自分でも理解しているのでしょう。
 大きなおっぱいを誇らしげに
 見せ付けてきます。
 その表情はもう大人の女です。
 エロエロ淫乱なメスです。



チンチンをだしてやると、喜んで
 すぐにおっぱいではさんで
 きました。巨乳パイズリです。



自慢の巨乳から溢れた亀頭も、
 ちろちろと舌でなめなめします。
 やわらかサンドイッチペろペろ固めます。

ねっとりとしたぷにぺろ攻撃に、
愚息も思わず昇天です。



どぴゅどぴゅと精液を吐き出し、
紫穂の顔を白く汚してやりました。

「ふふっ♪」
得意げな表情で、紫穂は
顔にかかった精液を
指で拭きます。



そして指でからめた精液を、
うっとりとした顔を
見せ付けるように嘗め始めます。
この女、とことん男を悦ばせる
ツボを知っています。

精液を全部嘗め終わると、
紫穂は急にモジモジ
し始めました。
「マンコ！卵子！受精！」
しか頭に無い精子を
しこたま飲んだのだから、
発情するのも当然です。

あんまりにチンコを
欲しがってフェロモン
ぷんぷんさせるもん
ですから、チンチンも
すぐに復活しました。

エレクトチンコを見た紫穂は、
喜んで僕に跨ってきました。

発情マンコは準備万端な
ようので、ゆっくりねっとり
チンチンをくわえ込んで
いきます。

アアア

ずにゆっ、ちゆにゆっ
ちんちんを丸ごと飲み込んだ
紫穂は、我慢できないように
腰を振り出します。

紫穂の体が僕の上で跳ねるたびに、
大きなおっぱいがぶるんぶるん
ふるえます。けしからん乳です。

「あっ、あっああっ……!!」
紫穂の甘い喘ぎ声が、
耳に心地良いです。

ついでに、押し付けられた
おっぱいも気持ちよいです。

「あっ やっ んんんっ……！」
ひたすら快樂のみを貪った体が、
びくんと大きく震えのけぞります。
同時にきゅんと締まった
マンコに精液を注ぎ込んで
やりました。

温かいマンコの中で、
びゆるびゆると射精が続きます。
その度に紫穂の体が震えます。





種付けに満足した紫穂は
キスをせがみます。
自分から舌を突き出し、
僕の口内で踊ります。

ちゅく
ちゅく

紫穂はお互いの唾液が零れ落ちるような、
ねっとりしたキスが大好きです。



キスをするると、紫穂は安心
するんだそうです。
一番敏感な粘膜を通した意思の
読み取りだからでしょうか？

そんなやりとりを終えて、
紫穂は眠りにつきます。
なんの警戒心ももたない、
可愛い寝顔です。





新刊告知!

冬コミ 新刊から
ぬらりひよんの孫本やほす。

あとがき

どうだったでしょうか？
お楽しみいただけただけでしょうか？
それだけが心配です・・・

僕は描いてて楽しかったです。
本当に自由に、
気楽にやらせていただきました。
この調子で、冬コミにも参加
できたら最高です。

Webサイトもやっていますんで、
近況やお知らせなどはこちらも
どうぞよろしくお願いします。

発行：神風 STYLE

発行者：トリイセイジ

発行日：2008年10月

連絡先：syamo_1@yahoo.co.jp

Webサイト：<http://kamikazestyle.sakura.ne.jp/>

印刷：(株)大陽出版

☆無断転載、ネットへのアップロード等を禁じます。



ピン

ピン

チ
コ

神風 STYLE presents!

絶対に可憐な少女達の本です。

チ
コ